

5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム

2020年度 事業計画

2020年9月24日

■ 目 的

第5世代移動通信システムをはじめとする高度情報通信技術（以下「5G」という。）及びデジタル技術等の利活用の促進と新市場創出を図り、企業や地方公共団体、関係府省庁等の連携により、産業・社会のデジタルトランスフォーメーションを推進するための事業を通じて、我が国経済の発展に貢献することを目的とする。

■ 事 業 上記目的を達成するために以下の事業を行う。

- （１） 5G及びデジタル技術等に関するニーズ、ユースケース、課題等の調査検討や政策提言
- （２） 5G及びデジタル技術等に関するサービスの普及啓発にあたり、必要な情報の整理、発信
- （３） 5G及びデジタル技術等に関する市場及び技術動向等の調査研究
- （４） このほか、本コンソーシアムの目的を達成するために必要な事業

本コンソーシアムにおける活動の展望

- 5Gをはじめとする高度情報通信インフラは、それらをDXのツールとして利活用する側 （ユーザー）が自ら目的に合わせて主体的に考え、生産性向上やサービス等の高付加価値化を図ることが重要である。また、他の事業者との共創によって、サービス等の価値はさらに高まり、やがては新たな社会システムをデザインしていくことが可能となる。
- ユーザーを含め、あらゆる業界・業種のプレイヤーが集う「5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム」を設立し、フェーズに応じた活動を展開する。

- ✓ ユースケースの多角的視点による考察
- ✓ ユーザー向け解説コンテンツ
- ✓ 市場の見通し

初 期

- ✓ 分野別ユースケースの集約
- ✓ 社会浸透に向けた普及啓発
- ✓ 海外動向の把握

導入期

- ✓ サービスモデルの提言
- ✓ 分野別の課題等に合わせた活動
- ✓ 市場形成を後押しする制度要望

成長期

社会環境に合わせて、必要とされる取組みを柔軟に考え、各事業者にとって価値のある活動を持続

本コンソーシアムにおける活動のスコープ

- 本コンソーシアムでは、ビジネスやユーザーの視点を重視した活動を推進。
- 先ずはローカル5Gに着目した活動を行い、各ステークホルダーの共創による新たなビジネスの勃興を目指す。

①DXを具体化するユーザー

サービス事業者 地方公共団体
フィールド保有者 等

②アプリケーション提供事業者

IT・OT NW構築 クラウド提供 等

③ハードウェアメーカー

通信機器 ロボット 電子部品 半導体等

5G/ローカル5G利活用の可能性がある分野の一例



行政・街



教育



製造



建設



医療・ヘルスケア



農業・畜産



観光

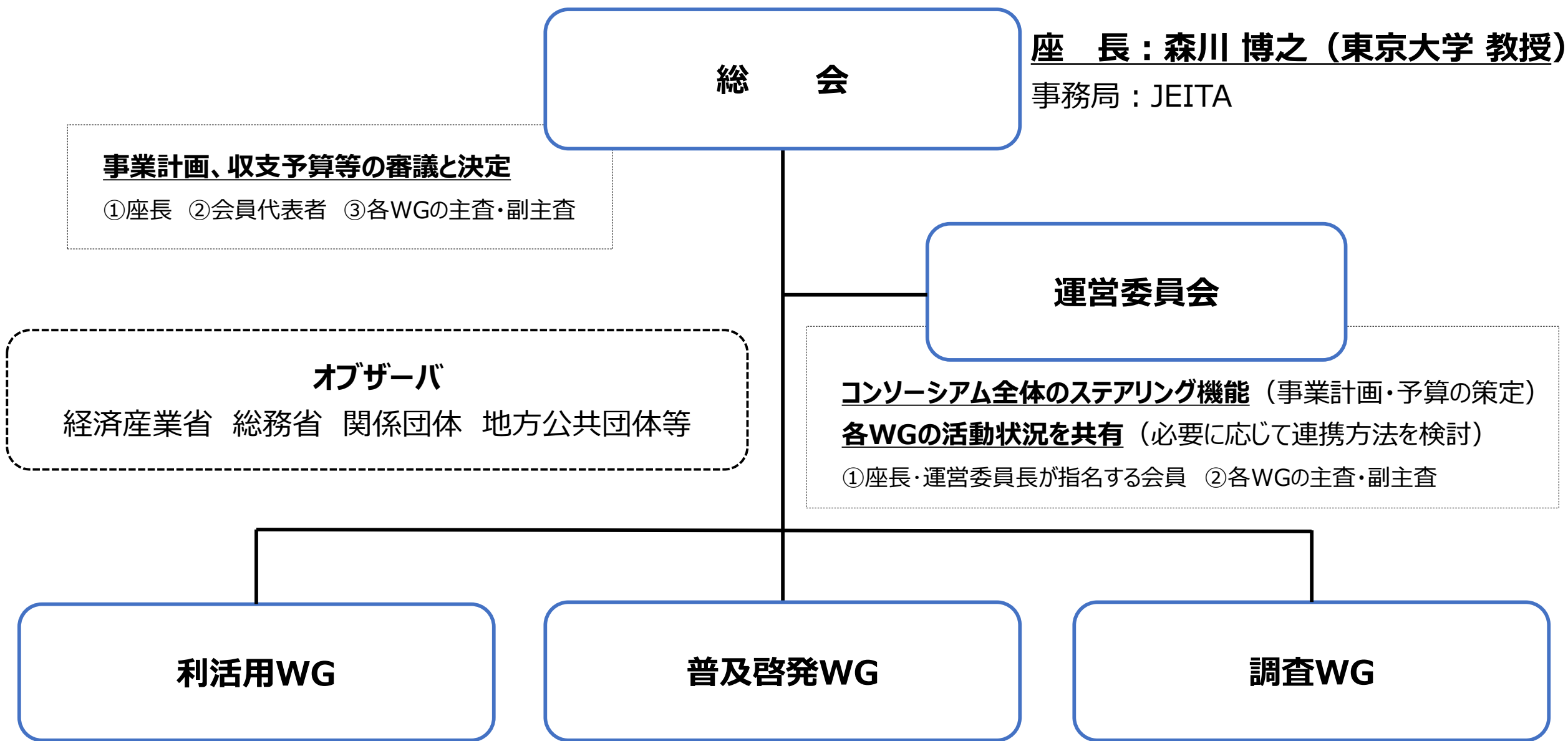


モビリティ

多角的な視点から考察

- ① 課題抽出・解決のための検討を通じてユースケースの社会浸透を推進。（DXのマインド醸成）
- ② アプリケーションレイヤーを中心にビジネス領域の拡大を後押し。（新規市場の開拓）
- ③ 海外展開やBeyond5Gも見据えた製品の研究開発を促進。（競争力の維持）

本コンソーシアムの組織体制



利活用WG

■ 活動の狙い

- 5G/ローカル5Gの利活用による業務革新・新サービス創出の可能性及び課題について関係者間の相互理解を図るため、すでに開発実証が行われているユースケースを多角的な視点で考察する。
- 「5Gならではの」サービスの創出と普及に向けて、本コンソーシアムを起点とした企業間連携や政策連携を促し、サービスモデルの提言や制度要望等につなげる。

■ 検討事項

① 共通認識の形成

- アンケート調査等を通じた、WG構成メンバーの立ち位置・ニーズ等の共有
- 5G技術動向、関連制度の把握

② ユースケースの考察

- 個々のユースケースにおける導入の有効性やボトルネック等（技術的/ビジネス的視点）の考察
- 価値交換の可視化や普及シナリオ等に関する意見交換

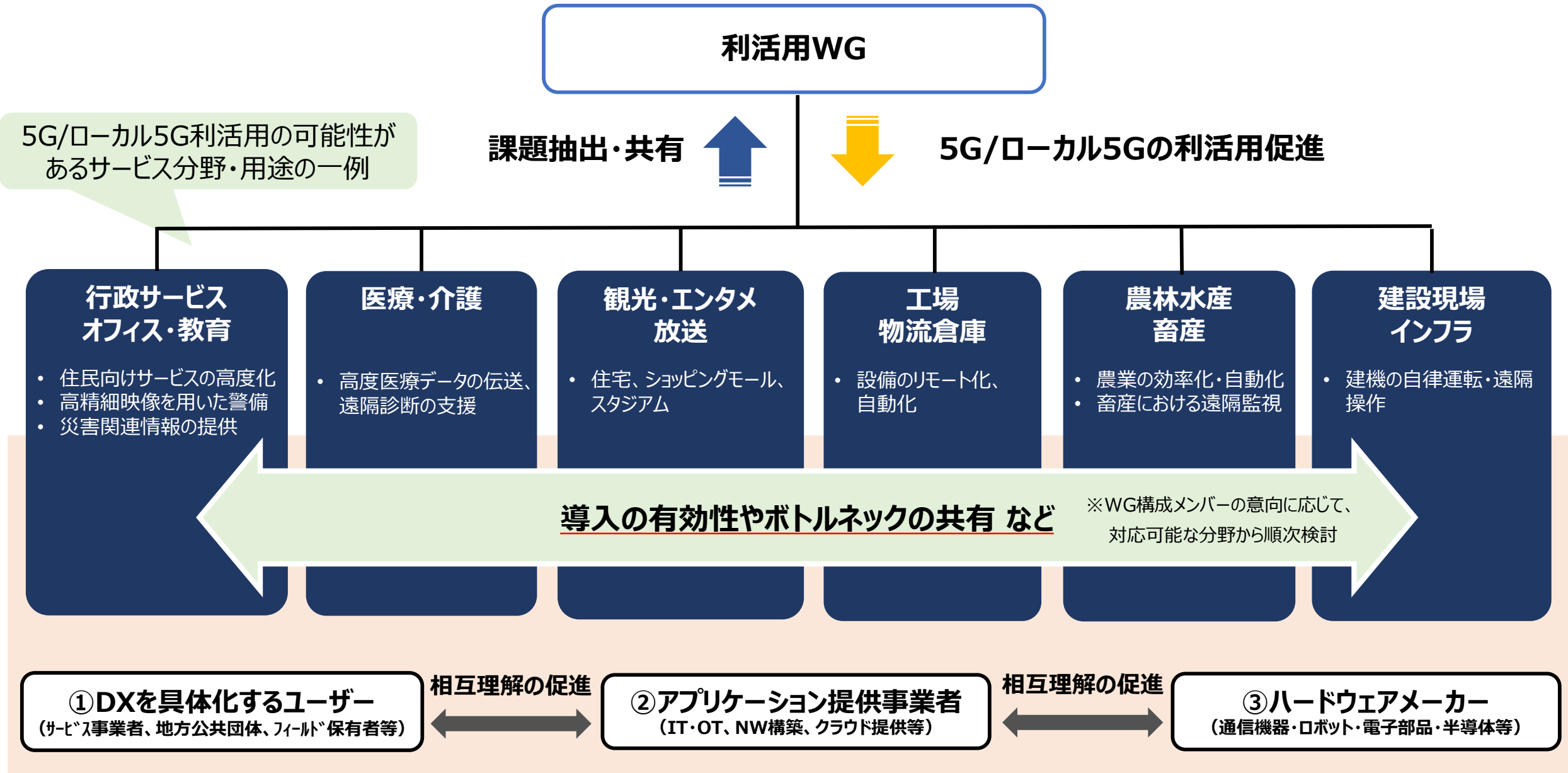
③ 企業間連携・政策連携の促進

- フィールド提供の提案や課題提起、ソリューション紹介を通じた、ニーズとシーズのマッチング強化
- 国や自治体との政策連携、制度要望に向けた検討

■ 検討スケジュール

	2020年 10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月
WG開催	●	●	●	●	●	●
検討事項	アンケート調査等	考察対象とするユースケースの選定 → ユースケースの考察				考察結果のフィードバック
		企業間連携・政策連携の促進（ニーズとシーズのマッチング強化）				

(参考) 利活用WGの目指す体制イメージ



■ 活動の狙い

正確な情報を丁寧に伝えることが、ユーザー企業や地方公共団体の理解を促進させ、市場拡大に繋がる。

例：技術動向に関する情報（規格値に対する実測値、5GとWi-Fi6の違いや特徴など）、5G税制の理解と申請手続き

■ 検討事項

- ・ 5G/ローカル5Gの仕組みや特性、事例等について、**情報を正確に伝えてユーザー層の理解を得る**ことが必要。
- ・ 利活用に向けた障壁の一つとして**導入・維持コスト**が挙げられ、市場形成には**国の支援策による後押し**が有効。
- ・ **潜在的、将来的なユーザーに向けて発信すべき情報**は何か整理することが重要。

ユーザー向け
5G/ローカル5G解説

サービスや導入事例の紹介
＊利活用WGの活動と協調

5G/ローカル5G
導入促進税制活用ガイド

関係省庁との政策連携

活動のアウトプット ①ユーザーの理解促進 ②ユーザー・アプリケーション提供事業者のビジネス後押し

■ 検討スケジュール

	2020年 10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月
WG開催	●	●	●	●	●	●
検討事項	加盟会社/自治体にアンケート調査		ユーザーへのヒアリング		ユースケースの共有	
	税制の概要と申請手続きに関する解説		事業計画・予算策定		申請手続きに関するセミナーなど	

■ 活動の狙い

会員の事業計画の検討や経営判断、制度要望等に活用できる情報の取得。（5G関連のビジネス勃興を後押し）

■ 検討事項

- ① テーマの選定方法（利用目的の明確化） ② 調査内容と深度（目的達成に必要なレベル感） ③ 調査機関の選定 ④ 調査実施時期

■ テーマと利用用途例

5G/ローカル5G 国内外市場動向

- ・調達 ・生産計画（設備投資）
- ・税制等の制度要望へのエビデンス

国内外ユースケース

- ・先進事例収集による有望市場の見極め
- ・諸外国の政策、企業動向の把握等による海外展開の足掛かりの探求

技術動向 要求特性

- ・ユーザーや分野固有に求められる仕様などの研究による開発支援

■ 検討スケジュール

初年度は調査設計に主眼を置いた活動とし、委員に対するアンケートを通じた利用目的の明確化や外部機関が公表している5G関連調査を参考に調査内容を検討する。

	2020年 10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月
WG開催	●	●	●	●	●	●
検討事項	テーマ、調査内容の概要検討			調査内容の詳細検討		
	アンケート調査 公開情報の収集		調査機関の選定	予備調査（必要に応じて）		